

英語冠詞と文法の感覚的学習法
ポップス・ジャズの歌詞と映画タイトル編
マーケティング教科書による文章編

著作 株式会社フィルメックス・コーポレーション

本文より抜粋

第1編

ポップス・ジャズの歌詞と映画タイトルで覚える英語冠詞と文法の感覚的学習法

- 目次 -

- ・ 英語が苦手になる原因
- ・ 映画のタイトルや歌詞の中から冠詞の用法や文法のヒントが得られる。
- ・ ユー・ガット・メール / You've got mail.
- ・ 竜馬を斬った男 / The man who assassinated Ryoma
- ・ 第3の男 / The Third Man
- ・ ハワイの結婚式の歌 / The Hawaiian Wedding Song
- ・ フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン / Fly me to the moon
- ・ 明るい街角で / On the sunny side of the street
- ・ 恋の気分で / I'm in the mood for love
- ・ 一晩中踊れたら / I could have danced all night
- ・ ハーバーライト / Harbor lights
- ・ 涙のチャペル / Cryin' in the chapel
- ・ 月光のチャペル / In the chapel in the moonlight
- ・ 慕情 / Love is a many-splendored thing
- ・ 誰かが私を見つめてる / Someone to watch over me
- ・ ディープ・パープル / Deep purple
- ・ スター・ダスト / Star Dust

本文より抜粋

第1編

ポップス・ジャズの歌詞と映画タイトルで覚える英語冠詞と文法の感覚的学習法

英語が苦手になる原因

一般に英語が嫌いになる原因には次のようなものがある。

- ・辞書に書かれている英単語の数が多すぎ、とても覚え切れない。
- ・辞書をいちいち引くのが面倒くさい。
- ・数学の公式のようにピタリと当てはまる模範的文章だけ覚えてそれらを活用したいが、文法通りでない例外的な表現が多すぎてうまく活用できない。
- ・不規則動詞を覚えるのが大変である。
- ・現在完了、過去完了など時制が理解しにくい。
- ・一つの単語がたくさんの意味を持っているので適切な訳語の選択が難しい。
- ・名詞の単数、複数と不定冠詞、定冠詞、無冠詞の使い分けが理解しにくい。

以上の要因の他にも我々日本語民族にとって馴染めない英語独特の表現が無数にある。

このなかで特に煩わしいのが英単語と辞書についてである。英和辞典も英英辞典も単語を検索しやすいように単にアルファベット順に配列しているので、各単語の意味をアルファベット順に(abide, abandon など)丸暗記しても折角覚えた単語の使用頻度が低かったりして、実際の英文中でその単語にめったに遭遇しないことの方が多いのである。

英語関連の参考書、入試問題集、一般社会人向け教養書には多種多様な英文サンプルが断片的に掲載され、ケ - スパイケ - スで解説されている。しかしながらそのような断片的に抜粋された例文を全部記憶することができたとしてもそれらの文章を系統的に記憶し、次の機会に活用するのは容易なことではない。

どうやら我々人間の頭脳は、文章や構文をデジタル的に記憶しておいて、それらを初めてお目に掛かった文章に適合しようとするのはどうも苦手なのではないだろうか。むしろアナログデ - タとしてイメ - ジとして記憶しておいて、記憶されたイメ - ジに似たような情景に遭遇したとき、必要に応じてそれらの記憶されたアナログデ - タを即座に検索し活用するのに向いているのではないだろうか。

だから、断片的な英文をいくら記憶していてもいざと言うときにそれらをすぐに応用できない場合が多いのではないかと思う。

本書の第1編は、日本人によく親しまれているポップスとジャズのなかの、聞き覚えのあるメロディー部分の歌詞や映画のタイトルをピックアップし、冠詞の用法と汎用的な文法を感覚的に体得することを意図している。

本文より抜粋

さらに、歌詞やタイトルの中の単語やその同意語や反意語も連想的に分かりやすく解説して読者のボキャブラリのボリュームアップを図っている。なお、本編は英文の解説を目的としているので、歌詞はできるだけ原文に忠実に逐語的に和訳してある。

映画のタイトルや歌詞の中から冠詞の用法や文法のヒントが得られる。

ユー・ガット・メール / You've got mail.

インターネットを介して個人的にメールをやり取りする「メル友」をテーマにした映画「ユー・ガット・メール」/You've got mail（「メールが届いています」：トム・ハンクス/メグ・ライアン主演）は、ノートパソコンが電子メールを受信するとディスプレイに表示する You've got mail というメッセージをタイトルにしたストーリーである。日本語のタイトルは「ユー・ガット・メール」であるが英文のタイトルは現在完了形で You've got mail である。

You've got a mail と不定冠詞が付いてもよさそうに思えるが、実は mail は郵便システムによって配達される手紙や小包などの総称（a single collection of letters, packages, etc.）であり、不可算名詞（uncountable noun）* であって、定冠詞 "the" がつくことがあっても不定冠詞 "a" がつくことはない。「1 通のメール」は a piece of mail である。（但し、郵便制度や郵便物を総称して複数形 mails になることがある。）mail に代わって手紙/letter の場合は普通名詞であるから不定冠詞が付いて "You've got a letter" と表現できる。have got は成句で、have/「持っている」の意味があり、（例：I have got that book./あの本を持っている。）You have got mail. は「メールが届いています。」の意味である。

ところで、「メールを受け取った」を You have received mail. と現在完了形で表現する場合と You received mail. と過去形で表現する場合とでは意味にどのような違いがあるのだろうか。

「あなたはメールを受け取った。」 「メールが着いた。」という単に過去の出来事を表現する場合には過去形の You received mail. になる。しかしながら、過去形では「単にメールが着いた。」という事象を述べているのであって、その手紙が現在どのような状態にあるかは文意に含まれていない。一方、現在完了形の You have received mail では、「メールが今着信されました。」と言う意味と、「メールが着信されていて、その状態が現在もつづいている。」という意味になる。従って「メールが来ています。」が適訳であろう。

五木ひろしのヒット曲「よこはまたそがれ」の中の「あの人は行って行ってしまった・・・」を英訳すると、あの人は去ってしまっていて、現在は居ないのだから過去形の

本文より抜粋

He (She) went away. ではなくて現在完了形の He (She) has gone away. がびったりであろう。 現在完了形のタイトルにはジャズのスタンダードナンバー「君去りしの子」/After you've gone、ポップスでは「恋したことはない」/ I've never been in love before、「鉄道稼業」/I've been working on the railroad、映画のタイトルでは「風と共に去りぬ」/Gone with the wind などがある。

なお、学校英語では、「冬が来た。」 今、冬になっていることを意味する場合は Winter has come. と現在完了形で教わるが、過去を表わす副詞句などがある文章、例えば「去年は冬になるのが遅かった。」は過去形で Winter came late last year. となる。

get を含んだ歌のタイトルには次のようなものがある。

- I got rhythm/アイ・ガット・リズム
(注) rhythm は uncountable noun なので不定冠詞が付かない。
- I've got you under my skin/あなたはしっかり私のもの
(注) 現在完了形で事象が現在も継続していることを示している。
- I can't get started/言い出しかねて
- Smoke gets in your eyes/煙が目にしみる
(注) この文の get は自動詞である。... gets in : ...が入り込む。
You've got mail の get は他動詞。
- I'm getting sentimental over you/センチになって
(注) be sentimental over : ...について感傷的になる。涙もろくなる。
- Don't let the stars get in your eyes/星を見つめないで
- Get out and get under the moon/月光価千金
get out : 外出する
get under: ...の下に入る ...の下に来る
- By the time I get to phoenix/恋はフェニックス
get to : ...に着く
- Get me to the church on time/教会に間にあうように
- Getting to know you/ゲッティング・トゥ・ノウ・ユー
- Get up I feel like being a sex machine/セックス・マシン
- Johnny get angry/内気なジョニー
- Let's get together/レッツ・ゲット・トゥギャザー

竜馬を斬った男 / The man who assassinated Ryoma

今から 10 年以上前の日本映画に「竜馬を斬った男」(原田芳雄主演)があった。この映画には上記のように英文の副題が付けられていたので筆者は特に記憶している。

本文より抜粋

第2編 冠詞の役割と訳し方 マーケティング教科書による文章編

日本では一般に外国語、特に英語の教科は一部の私立学校を除けば中学から始まり、高校、大学教養課程へと合計約8年間続く。その間に、いわゆる英語好きの語学に強い学生と英語、語学嫌いの学生に分かれていくようである。英語が社会に広く浸透しているといっても日本は海に囲まれた島国であり、商社や外資系会社等を除けば社会に出て英会話ができなくても、英語の読み書きにたんのうでなくてもさほど不自由しないのが実情である。従来、技術中心のメ - カ - などでは英会話や語学にたんのうな者は逆に「語学屋」という一種の便利屋的次元でとらえられ、そこでは語学たんのうなことはいわゆるトップマネ - ジメントへのパスポ - トではなかった。

費用の問題は別とすれば、法律問題の処理は顧問弁護士に依頼し、経理会計処理は税理士や公認会計士に相談・依頼するように、外国人と交渉する際には通訳という専門家を雇えばよいからである。

極論すれば、語学もたんのうで、経理にも通じ、営業もこなすというような万能人間はいわゆる日本の諺で言えば「器用貧乏」、米国では「よろずやジャック」(Jack-of-all-trades, handyman : ウエブスタ - 辞書によれば A man employed at various small tasks: 雑役人) という名称が与えられてきた。

通産省出身の元首相、宮沢喜一氏は当時の池田首相に重用された優秀な官僚であるが語学もたんのうであったがために首相に就任してからもマスコミなどでは「英語好きの宮沢さん」、「英語に堪能な宮沢さん」というどちらかと言えばあまり重厚感のないネ - ミングが与えられていた。

このように一般社会では、医師、弁護士、大学教授など狭い分野で深い知識のある専門家の方が尊敬されているようである。

しかしながらその一方、民間企業内では1つの部門で経験を積んだスペシャリストよりも多くの部門を経験してきたゼネラリストのほうがトップに昇進する機会が多いように思われる。

というよりも終身雇用制度の下で、企業は社員を入社当初からいくつもの部門を経験させてトップマネ - ジメントになるべく養成してきたのである。もっともこのような傾向も段々と不況下の日本では薄れつつあるようである。

従来は、社員が在職中に税理士の資格を取得したり、司法試験に合格したりすると経理部門や総務部門あるいは特許部門にはりつけられトップマネ - ジメントへの道はかえって遠くなる傾向があった。

この結果、スタッフよりもラインを志向し、スペシャリストとなるよりもゼネラリストとなることが管理職への近道であった。しかしながら、周知のように最近では国際化の進展とともに世界的なレベルで企業間競争が激化し、日本でも「リストラ」とい

本文より抜粋

う言葉に象徴されるように、コスト管理の重要性が叫ばれ、特に販売管理費を圧縮するという大義名分でいわゆる中間管理職への風当たりが強まりつつある。

今では、弁護士や税理士の資格を持ち、かつマネージメント業務もこなせる総務担当社員、経理担当社員、営業担当者がますます要求されるようになってきているのである。

国際化の大きな流れの中では外国語で書かれた情報が、ファックスや通信費の安いEメールを通じてあふれるように企業に流れ込む。したがって、人材の活用という面からも海外業務関連の社員のみならず殆ど全部の社員にかなりの語学力、特に英語力が要求されつつある。

従来貿易英語検定試験制度に加えて最近ではTOEICやTOFLE検定試験もさようになり、英語力の増強が強く求められるようになってきている。

ところで、筆者は1975年に今の翻訳会社を設立して以来25年間にわたって多数の翻訳者の協力を得ながら自分でも翻訳に携わってきた。この仕事の厳しいところは

御客様から依頼された文書の翻訳を、「難しくくてできません。」とか「とても悪文で翻訳不可能です。」などと、例えそうであっても依頼客には決して言えないところである。

勿論、文章中に不明点や疑問点があれば依頼客に問い合わせ確認するが、文章は人により様々であり皆が論理の明快な分かり易い文章を書くとは限らないし、外国からの文書の場合は不明箇所があっても書いた当人に問い合わせることが困難である。

料金を頂いて翻訳を引き受けるということは、依頼客に100点満点の答案を提出しなければならないということである。

また、我々の仕事は1ページの翻訳に長い時間をかけるわけにはいかない。論理の通った平易な叙述文章なら日本語400字を英文に翻訳するのに15分~20分位、平易な叙述的英文を400字程度の日本語に翻訳する場合もそれと同程度の時間でこなさなければ商売にならない。

反対に、論理の通らない文章、端的に言えば何を言っているのかさっぱり分からない文章の翻訳にはかなり時間がかかる。実際に我々が受注する原稿は論理的でない、つまり翻訳しにくい文章の方が圧倒的に多いのである。

しかしながらどんなに分かりにくい表現の文章でも何回も繰返し読んでみると書き手の言わんとするところがぼんやりと見えてくるものである。翻訳を適切にこなすこつ

は、文章の稚拙を問わず、その原稿を書いた人の意向を的確に理解し判断することなのである。当然のことながら、論理の通らないいれいれ加減な翻訳を提出すると次回からの受注はまず望めなくなる。

嘗て、筆者もたった1行の英文が理解できないため何時間も辞書を引き、図書館に通い、書店で立ち読みし、全部でわずか4ページの翻訳を何日も掛かってやっと仕上げたこともあった。

しかしながら、このようにして日夜経験を積み重ねていくことによって、10年目位からはどんな文章でもこなすことができるようになった。

現在では、高性能のワープロやパソコンソフトがあるので処理能力も飛躍的に向上させることができるようになってきている。

本文より抜粋

書店ではかなりの種類のいわゆる「英語もの」出版物が売られているが、私のような翻訳業者が書いた本にはあまりお目に掛からない。

本書では、特に英文 日本語訳に的を絞り、単に翻訳という側面からではなく、英文法解説的な語学的側面からでもなく、日本語には存在しない「冠詞」を手掛かりにして英文を徹底的に解明していきたい。英文は書けるが冠詞の付け方が理解しにくいと感じられている学生や受験生諸君、一般社会人ならびに今まで英語の苦手だった人達の一助になれば幸甚である。

語学は学習するとともに少しずつ上達するのではなく、心理学でいう「高原状態」を経ながら段階的に上達していくのである。文法的な知識を満遍なく学習するよりも例えば「名詞」なら「名詞」だけを集中的に学習すると、それに伴って他の品詞との関係が理解できるようになりスランプ（高原状態）を回避でき、効率的な学習効果が得られる。

筆者は自分の経験から、英文翻訳上達の秘訣は正しく書かれた標準的な英文を冠詞から句読点まで細部にわたって分析し、理解すること、つまり精読にあると考えている。

冠詞の適切な使用法をマスターするためには、冠詞が付けられる名詞やその他の品詞についても習熟することが必要になり、不定冠詞(a, an)の付けられないいわゆる数えることのできない uncountable な名詞と countable な名詞との区別を学習しなければならない。つまり、文章中の各品詞は機能的に連結しているので1つの品詞を徹底的にマスターすれば他の品詞への理解も必然的に深まるはずである。

定冠詞と不定冠詞の用法については詳しい文法書が何点か発刊されている。

実際、冠詞の用法は非常に複雑であって深く立ち入れれば立ち入るほど「樹を見て森を見ない。」という事態に遭遇するのである。

本書は文法書ではないので冠詞の文法を詳説することを目的とするものではないが、実用上冠詞を理解するには原則として下記の2つの事項を念頭においておくことを推奨する。

1. 不定冠詞 (indefinite article) は英語の意味どおりに「特定しないまたは限定しないための冠詞」すなわち「非特定用冠詞」であり、また「一つの」という意味も含んでいる。
この場合重要なことは、不定冠詞が付けられた名詞は「それと同じものが他にも存在している。」ということも感覚的に把握しておくことが重要である。
2. 定冠詞 (definite article) とは英語の意味どおりに「特定し、定義づけるための

本文より抜粋

冠詞」すなわち「特定用冠詞」と理解しておく。

3. 種族全体を総称的に表現する場合の不定冠詞、定冠詞、無冠詞のニュアンスの違いは下記の例文を覚えておくと便利である。

以下は「詳解英文法辞典 開拓社」より部分的に引用する。

例えば、「馬は有用な動物である。」の英文としては以下の4つの文例があるが、それぞれの分のニュアンスは少しずつ異なっているという。

- 1) A horse is a useful animal.
- 2) The horse is a useful animal.
- 3) Horses are useful animals.
- 4) The horses are useful animals.

不定冠詞を用いた1)は1匹の馬を代表して「馬はどの馬でも」という意味で、一般の馬に通ずる真理を述べる場合に用い、定冠詞を用いた2)はいわゆる「代表単数」で、むしろ現実を離れて観念的・抽象的に見た馬であり、「馬というものは」という意味で馬全体に通じる真理を述べる場合に用いる。定冠詞を用いた2)は1) 3)に比べて形式ばった、文語的の表現であり、1)と3)は口語的な語法であるが、複数形を用いた3)は最も常識的でよく用いられ、その用例も1) 3)に比べてはるかに多い。

1) 2) 3)がいずれも総称的表現であるのにたいし、この4)は完全に特殊的な表現である。「特殊的」であるということは、しかし必ずしも「個別的」ということではなくて「特定の」または「具体的な」意であって、「the + 複数名詞」はある種の個物(人および物)の任意的集団の具体的全体をさすものである。……以下省略

以上の用に冠詞の明細な定義と用法についてもっと深く学習したい方は専門の文法書を参考にされたい。

名詞は普通名詞、集合名詞、固有名詞、物質名詞、抽象名詞に分類されるとか、冠詞は原則として数えられる名詞(countable noun)につけるとか、文法的規則はあるとしても、人はどんな言葉でも自由に使用することができる。

つまり、他人の文章を英訳する場合、その文章が表現しようとする意味を考慮しないで数学的に冠詞を付けたり、また和訳する場合は文意を理解しないまま冠詞の意味を無視したり、誤って解釈してはならないのである。

本文より抜粋

英字新聞、テレビや映画のシナリオ、文学小説、ドキュメンタリ - 、エッセイなど広範囲な英文を教材に利用するののも一つの方法であるが、これらの文章には特殊な言回しや省略法が頻繁に使用されており、必ずしも我々が修得した英文法どおりに表現されているとは限らない。

言語の世界では一般に、どんなに外国語を勉強してもその外国語を母国語としている人達には到底かなわない。例えば、日本語に非常にたんのうな外国人でも、我々の普段大っぴらにはしゃべらないような隠語、方言や特殊なヤクザ言葉にまではたんのうではない。

反対に、英語にたんのうなニュー - スキャスタ - やサイマルの通訳の方でも、インターネット上のアメリカのポルノやアダルトビデオ販売用のホ - ムペ - ジに書かれている独特の英文を日本人の感覚で完全に理解しようとしても難しいと思う。

特殊な表現や慣用句などを一つ一つ覚えていくよりも、模範的な英文を完全に理解できるようになるほうが上達の近道である。

正しく文法通り書かれた標準的な英文としては、アメリカまたはイギリスで使用されている教科書が最適だと思う。したがって、本書では、出版年度は古いがアメリカの大学で使用されている経営学の参考書 "CASES IN MARKETING", AN ADMINISTRATIVE APPROACH (JOHN WILLEY & SONS, INC.)・・・「マーケティングの事例研究」を採用し、序文から始め、翻訳上達に役立つと思われる文章を取上げて解説していく。

尚、この本の著者は、HARRY A. LIPSON (University of Alabama)と JOHN R. DARLING (University of Missouri)の2名である。

Paragraph 1

INTRODUCTION TO MARKETING

1)A major purpose of this volume is to introduce 2)the student to 3)the total field of marketing a)---particularly 4)the areas of decision-making b) that are of major concern c) to 5)the administrator who plans, directs, and controls 6)the marketing operations of a business enterprise.

- ・ 文型：S（主語）+ V（不完全自動詞）+ C（補語）

第1段階の訳文例（冠詞の役割にあまり配慮されていない訳文）:

「マーケティング入門

本巻の主目的は、マーケティングの全分野・・・特に、企業のマーケティング業務を計画し、指示し、統括する管理者にとって大きな関心事項である意志決定の分野を学生に紹介することである。」

本文より抜粋

学校英語レベルの訳文で平板な感じが否めない。これは訳文に英文中の冠詞のニュアンスがあまり反映されていないからである。冠詞には名詞またはその他の品詞と一体になり影のように寄り添ってその名詞または品詞の意味を浮き彫りにしていく役割がある。

冠詞の説明

- 1) 文頭の不定冠詞はなかなか含蓄がある。これはなぜ定冠詞 "The" でないのだろうか。

前述したとおり、不定冠詞は「特定も限定もしないための冠詞」すなわち「非特定用冠詞」であり、また「一つの」という意味も含んでいる。

従って、この本の著者は、A major purpose of this volume..... のフレーズによって「本巻の主な目的の一つは」、つまり「本巻には他にもいくつかの主な目的があるがその内の一つが・・・」ということ表現していると考えれば理解し易い。英語を母国語とする読者ならばこの文頭を読んだ瞬間、「本巻には述語部分に説明された主目的以外にも複数のメインテーマが含まれているのだな。」と無意識のうちにも感覚的に分かるようになっている。冠詞を持たない日本人にはこの微妙な表現がつかみ難い。

それではこの文頭に不定冠詞の代わりに定冠詞 "The" が付いて "The major purpose of this volume ..." の場合はどういうニュアンスになるのだろうか。その場合は単に「本巻の主目的は・・・」という特定の意味合いになり、「本巻の主目的は・・・することである。」つまり、述語部分に記載された事柄が本巻の主目的であり、これ以外に本巻の主目的が存在するかどうかは示唆していない。

- 2) the student は、可算普通名詞の単数形に定冠詞を付けてその名詞を総称する定冠詞の用法である。本書は教科書なのでこのような文語的な表現が採られている。不定冠詞が付いた a student や無冠詞複数の students は口語的な表現になる。
- 3) the total field of marketing この定冠詞はマーケティングの全ての分野を特定した表現である。もし a total field of marketing という表現になると、マーケティングの全分野が他にいくつもあるということになりここでは意味が通らなくなる。但し、不定冠詞を付けるならば意味は違ってしまうが total を取って a field of marketing という表現が可能である。
- 4) the areas of decision-making
the areas は複数の領域を包括的に表現している。
従って、「意志決定に関する領域」という意味である。
- 5) the administrator
この定冠詞は、マーケティング業務を担当する特定の管理者階層を総称して表現している。

本文より抜粋

6) the marketing operations of a business enterprise.

この定冠詞は、単なるマーケティング活動ではなく「a business enterprise:企業」のマーケティング活動を特定して表現している。単にマーケティング活動という場合には marketing operations となる。

7) a business enterprise

enterprise は本文中で初めて現れた可算 (countable) 普通名詞であるから不定冠詞が付いている。冠詞なしの複数形 enterprises でも同じ意味である。

a) 不加算名詞なので無冠詞。

b) 不加算名詞なので無冠詞。

c) この文では、関心、心配の意味なので不加算名詞：無冠詞。

関心事、会社などの意味になると加算名詞になる。

第2段階の訳文例

「マーケティング入門

本巻のメインテーマの一つは、マーケティングのあらゆる分野・・・特に、企業にあってそのマーケティング業務を計画し、指示し、統括する管理者層にとって大きな関心事項でもある「意志決定」の分野について学生諸君に紹介することである。

Paragraph 2

Within this general approach, we prefer to examine marketing from ¹⁾the administrator's viewpoint. We, therefore, define marketing in this way: Marketing includes all ²⁾those operations of ³⁾a business system that are involved in determining and influencing existing and potential ⁴⁾demand in ⁵⁾the marketplace, and activating ⁶⁾the supply of goods, services, and ideas that will meet this demand and create ⁷⁾the desired customer market transaction.

第1段階の訳文例：

我々(筆者)(*)はこの一般的な方法の範囲内で、管理者層の観点からマーケティングを検討していきたい。従って、筆者はマーケティングを以下のように定義する：マーケティングは、市場の既存の需要および潜在需要を測定し、その需要に影響を与える業務に関連し、あるいはこの需要を満たし、意図した顧客市場取引を創造することができる商品、サービスおよびアイデアの供給を活性化させる業務に関連する、企業システムのすべてのマーケティング活動を包括している。

(*)本書は HARRY A. LIPSON と JOHN R. DARLING という2人の執筆者によって書かれているので筆者自身のことを複数 "We" と表現している。

A4 版、97 ページ、リングファイル装丁

・価格：3,700 円

[・注文書\(FAX 用\)](#) (pdf)